

平成 1 9 年度

第 5 回

(集团研修)

地域流域環境管理

実施要領

平成 1 9 年 5 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. コース基本情報	2
2. コースの目的	2
3. 到達目標	2
4. 研修プログラム	3
5. 研修員参加資格要件	4
6. 研修実施体制及び運営	4
7. 研修の評価	5
8. 研修付帯プログラム	6
9. 研修・宿泊施設	7
10. その他	7

付 属 資 料

- 付表－1 研修員の業務関連情報
- 付表－2 コースカリキュラム（案）
- 付表－3 平成19年度日程表（案）
- 付表－4 年度別受入実績表

1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(集団) 地域流域環境管理

英文：Group Training Course in Environmental Management of Regional Drainage Basin

(2) 受入期間

平成 19 年 5 月 6 日（日）～平成 19 年 7 月 21 日（土）

(3) 技術研修期間

平成 19 年 5 月 14 日（月）～平成 19 年 7 月 20 日（金）

(4) 定員、割当国

定 員：8 名

割当国：アフガニスタン、ブラジル、ブルキナファソ、インド、イラン、ラオス、メキシコ
パナマ、フィリピン、ウクライナ（下線は受入国）

2. コース目的

源流域から河口・沿岸域までの河川環境を流域単位で管理する総合的流域環境管理の基礎的概念や手法を様々な角度、立場から提供し、地域流域における持続的開発を可能にする自然環境保護の考え方を理解し、流域の環境管理に関する政策・計画を立案できる人材を育成する。

3. 到達目標

- (1) 地域流域環境管理の原理及び基礎的手法としての景観生態学を理解する
- (2) 流域の水環境管理の手法を理解する
 - ① 水質と流域環境管理
 - ② 治水・開発と流域環境管理
- (3) 流域の環境管理における住民参加・合意形成の手法を理解する
- (4) 流域の環境管理に関するプロジェクトの立案が可能となる

4. 研修プログラム

(1) 研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

ア. コースカリキュラム（付表-2 参照）

イ. ジョブレポート発表会（Job Report Presentation）

(7) 目的

- a. 研修員自身が問題点を再認識する
- b. 研修員相互間で問題意識を共有する
- c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対してこの研修でできることできないことを明確に示す意見交換の場とする。

(1) 発表内容

J/R 発表会において、各研修員は以下の3点について主に発表する

- a. 自国でどのような仕事に従事しているのか
- b. その仕事において現在どのような問題を抱えているか
- c. この研修の中で習得したい技術、知識

ウ. アクションプラン発表会（Action Plan Presentation）

(7) 目的

- a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする
- b. 可能な計画の立案能力向上
- c. 研修結果の資料として利用する

(1) 発表内容

J/R で提言した問題点、また、研修中に新たに想定された問題点の解決のためのプロジェクトの計画を策定し、その目標達成のための活動計画（アクションプラン）を発表する。（A/P の必要記載事項として、プロジェクトタイトル、解決すべき問題とそれに対するプロジェクト目標、期間、場所、事業主体、活動内容など、についての記述を求める）

(2) 使用言語 英語

5. 研修員参加資格要件

当該コースに関わる General Information 記載条件

- (1) 流域環境管理に関する改善、開発、研究に従事している技術官、企画立案者、研究者、教育者であること
- (2) 地理学、地形学、水文学、水管理、河川管理、野生生物管理、生態学的保全、土壌保全のいずれかの分野について専門的な背景・知識をもっていること
- (3) 流域環境管理の分野で3年以上の経験があること
- (4) 心身共に健康で、女性については野外実習が多いので妊娠していない者

各コース資格要件

- (1) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (2) 十分な英語能力を有すること
- (3) 軍隊に服役していないこと

6. 研修実施体制及び運営

本研修コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下、JICA 帯広）が計画する研修コースの実施に関する業務を、社団法人北方圏センター（以下、NRC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営するものとし、具体的業務分担は次のとおりとする。

(1) JICA 帯広

- ア. 研修実施計画書作成（コース目的、到達目標、研修期間など）
- イ. 研修の評価
- ウ. 研修実施予算の執行管理
- エ. 募集要項（G. I.）及び研修実施要領等の作成
- オ. その他

(2) NRC

- ア. 研修日程表の調整・作成
- イ. 講師、見学先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配
- エ. その他

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる技術的助言等

(4) 研修監理員 (Coordinator : CDN)

技術研修期間中、(財)日本国際協力センター (JICE) 所属の研修監理員 (CDN) を配置し、コース実施・運営の円滑・調整を図る。

- ア. 研修に係る関係者間の連絡調整
- イ. 通訳業務
- ウ. その他

7. 研修の評価

(1) 評価の目的

研修コースの到達目標 (2 頁参照) に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの研修内容の質的改善を図るものとする。

(2) 評価の方法

- ア. コースリーダー等による個々の研修員の到達目標の達成度把握
- イ. 個々の研修員による評価 (Questionnaire)
- ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に研修員が提出する Questionnaire (JICA 所定の様式による質問書) の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 改善検討会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA、コースリーダー、講師、NRC 等が参加し
研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善
に向けて対応方針を検討する。

8. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

研修員来日直後に、JICA 帯広国際センターにおいて実施する。ブリーフィングでは、JICA の業務概要説明及びコース概要、研修員登録、パスポートビザの有効期間確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

JICA 帯広にて実施し、日本の社会と日本人、・歴史・文化、経済、教育、政治・行政などの日本事情の紹介を目的とする。

(3) 日本語講習

研修員は、研修のみならず国際交流事業に役立てるよう、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

ブリーフィング・ジェネラルオリエンテーション・日本語講習日程

日 程	内 容
5 月 7 日 (月)	ブリーフィング
5 月 8 日 (火) 午前	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」
5 月 9 日 (水) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治、行政」「日本の経済」 講義「日本の歴史・文化」「日本の教育」
5 月 10 日 (木)	日本語講習
5 月 11 日 (金)	日本語講習

9. 研修・宿泊場所

独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

10. その他

(1) 修了証書

この研修を修了した研修員に JICA から修了証書(Certificate)を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

日本で技術研修を受けるために来日する者は研修ビザを取得し、日本滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA の規程に基づき、本コースの研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 開発教育支援

「開発教育」とは、開発途上国の文化、社会、人々の暮らし、日本との関係などを知ることによって開発途上国に関心を持ち、「貧困問題」や「環境問題」など地球全体の構造的な問題を自分の問題としてとらえ、解決のために自ら行動することが必要であるという認識を広めることを目的として小中学校の教育現場で実施されている。JICA はこの「開発教育」の支援に力を入れており、本研修コースの中に、地域の小中学校や地域住民との相互理解のためのプログラムが含まれている。



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター

〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1番地2

TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250

URL : <http://www.jica.go.jp/worldmap/hokkaidou.html#obihiro>

項目	科目	講義	実習	視察	討論	担当講師	講義目的	講義内容
到達目標1:地域流域環境管理の原理及び基礎的手法としての景観生態学を理解する								
	流域環境とその管理	0.5				北海道大学 小野有五教授	・流域環境の概念を理解する ・当コースの概略を理解する	地域流域環境管理の原理と基礎的手法
	ランドスケープの構造と地形学1・2・3						・開発がもたらす自然環境の変化について理解する ・土地利用の変化と影響 ・河川事業の立案・決定の過程における着眼点の歴史的变化を理解する	・十勝平野における開発に伴う河川の氾濫と堆積(十勝川の流路変化と低湿地の変化、森林除去、農地化の進展と河川下流域での土砂堆積) ・流域の開発に伴う河川の変化(流量、水位、氾濫、洪水、浸食と堆積、河道変化) ・十勝川流域の上流から下流を視察 ・景観生態学の概念、手法(エコトープ、ビオトープ、パッチ、コリドーなどの基本概念) ・河川生態系の保全と流域管理 ・札内川流域の札内ダム、段丘崖の河畔林、売買川の放水路などの近自然河川工法による改修工事等の視察
	湿地の修復	3.0		1.0			湿地修復の取り組み	上礼作別湿地ビオトープの設置を通して湿地における修復事業を視察
	白保サゴ村(轟川)			0.5			畑地開発による土壌侵食とサゴ礁への影響について現地で学ぶ	・白保珊瑚礁の保全の現状を視察
	森林管理とランドスケープエコロジー			0.5		北海道大学 中村教授	・自然復元の基礎知識 ・水辺林の更新動態、生態学的機能について理解する	・自然再生事業の現状と課題、実施時における基礎知識と問題点を釧路湿原の視察を通して学ぶ/釧路湿原視察 ・水辺林の更新動態、生態学的機能の視点から森林管理について学ぶ
	GISによる流域管理	1.0	1.0	1.0		酪農学園大学 金子准教授	・流域管理におけるGIS手法の有効性を理解するとともにGISの具体的手法を学ぶ	・GISの概念とその応用例 ・GISソフト-ArcViewの操作法、解析法などの基礎
	流域環境と生物多様性(ほ乳類)	1.5	1.5			帯広畜産大学 柳川准教授	・流域保全における生物多様性の維持の必要性を理解する	・帯広の森周辺に生息するエゾリス、エゾモンガに着目し、分断された生息域が生物の多様性に及ぼす影響とその対策を紹介
		0.5		0.5				
到達目標2:流域の水環境管理の手法を理解する								
2-1 水質と流域環境管理								
水環境と生物多様性	河川監視と水質保全					帯広市環境課	・水環境保全のための法制度を理解する	・日本河川の管理体制 ・利水状況 ・河川水質の現状と問題点 ・日本の水質公害の歴史 ・公共用水域の水質測定 ・環境基準 ・モニタリング手法と測定法
	流域環境と生物指標(水生昆虫)	0.5			0.5	帯広畜産大学 岩佐教授	・河川環境の指標生物としての水生昆虫が果たす役割を理解する ・水辺環境の現状と課題を理解する	・水生昆虫類の主な種類とそれらの生活 ・水生昆虫類の河川環境における役割 ・生物指標としての水生昆虫
上水道事業	浄水処理と水質基準	0.5		0.5		帯広市上下水道部水施設課 稲田浄水場	・帯広市の浄水処理技術を理解する	・帯広市の上水道事業の概要 ・伏流水の取水方法 ・集水埋渠の敷設方法 ・日本における水道水質基準 ・ジャーテストの実習 ・浄水場の視察
下水道事業	帯広市の下水処理	1.0	0.5	0.5		帯広市上下水道部総務課他	・帯広市の下水道事業を理解する	・帯広市の下水道事業の概要 ・下水処理施設を視察 ・十勝川流域浄化センターの視察
	下水汚泥の再利用、農村下水と個別浄化	0.5		0.5		西原環境テクノロジー	・下水の利用状況について学ぶ ・有機性廃棄物の利用状況、課題について理解する	・試験場概要説明、視察 ・有機性廃棄物の資源利用の現状と課題 ・個別浄化槽設備や小規模集落下水施設について
廃棄物処理	一般廃棄物処理(市民への啓蒙活動と環境教育)	0.5		0.5		くりりんセンター	・一般廃棄物処理の実態を理解する ・センターにおけるゴミの減量とリサイクルの手法を理解する ・市民への啓蒙活動、環境教育の重要性について理解する	・センター概要説明 ・リサイクルの現状・課題 ・処理施設の視察 ・一般廃棄物の処理状況 ・市民への啓蒙活動紹介
地下水	地下水の保全と有効利用	0.5		0.5		有賀くさ泉工業 渡邊社長	・十勝の水利地質状況の特性、地下水の開発状況と具体的な利用法、地下水利用の展望とその保全方法を学ぶ	・地下水開発と利用現場の視察
	畜産廃棄物の地下水汚染とリサイクル	0.5		0.5		帯広畜産大学 梅津准教授	・畜産廃棄物がもたらす土壌汚染を理解する ・先進的処理技術を知る	・畜産廃棄物による水系及び地下水汚染の現状と対策 ・家畜糞尿処理施設、バイオガスプラントの視察
まとめ	帯広市の環境政策と流域管理	1.0		0.5		帯広市環境課/水道施設課	到達目標2-1の内容を討論により総合的に理解する。	テーマにしたがって、研修員による発表と討論
2-2 治水・開発と流域環境管理								
環境行政	日本の環境行政と環境影響評価	0.5			0.5	環境省環境管理局 水環境部	・日本の行政の水環境に対する取り組みを理解する	・日本の水環境行政の変遷と現状 ・開発行為に対する環境アセスメントと関係省庁との調整
開発と水管理	農業と環境	0.5		0.5		ホクレン 西宗技監	・農業が環境に及ぼす影響について理解する	・十勝の基幹産業である農業(畜産を除く)が環境に及ぼす影響、課題 ・美生川流域での利水、汚染状況の視察
	自然型暗渠排水における水質改善			0.5		音更高校	・高校生との交流、意見交換	・高校が取り組む事例紹介 ・ディスカッション ・現場視察
	水俣病:流域における有機水銀による汚染			1.0		北海道大学 小野有五教授	・日本の流域環境汚染の歴史とその対策を理解する	・水俣病資料館他視察
	畑地帯の土壌流出			0.5	0.5	北海道大学 小野有五教授 南雲不二男氏他	・熱帯地域の流域における問題について理解する	・轟川流域での赤土流出の現状と対策について講義、視察
治水と利水	治水と住民生活1	0.5		0.5		帯広開発建設部 治水課 石田課長	河川法の変更にもとづく環境・住民参加を重視した治水事業について学ぶ	治水・利水事業、河川法の変遷を通じ、環境行政の変化を紹介し、公共事業への住民意見の反映と合意形成について議論するとともに十勝川流域に於ける事例を視察する
	千歳川流域	0.5		0.5		北海道大学 小野有五教授	大規模な流域変更や開発事業における住民参加・合意形成の重要性について学ぶ。	・千歳川放水路計画の経緯及び課題について説明するとともに千歳川放水路計画地域を視察し、解説する
その他	道外研修旅行のための事前説明	1.0				北海道大学 小野有五教授	視察に必要な知識の事前取得	道外研修旅行のための事前説明
到達目標3:流域の環境における住民参加・合意形成手法を理解する								
行政	川づくりと住民参加1(行政)	0.5		0.5		道・帯広土木 現行所	河川事業における住民参加・情報公開のあり方について学ぶ	・住民参加の現状と課題 ・住民参加手法 ・事例紹介(ヌツク、グラウンドワーク) ・現場視察(水辺の楽校)
	川づくりと住民参加2(行政)					帯広市都市建設部都市計画課	宅地開発と河川環境の保全について、住民参加・情報公開のありかたを学ぶ	・機関庫川流域計画事例紹介 (機関庫の川流域で計画された宅地開発事業で流域環境保全のために計画変更が行われた経緯と事業完了後の住民による流域環境保全のための活動について説明) ・現場視察
民間/NGO	森づくりと住民参加	0.5		0.5		十勝三勝森づくり21 川辺百樹	国立公園での住民参加型の環境回復・保全活動について学ぶ。	・国立公園内の河川の改修や立木の伐採がもたらした流域環境(生物相)への影響を視察し、今後の流域環境管理のあり方や自然保護上の問題点を考える
	住民参加による河川環境の保全と活用(環境団体)	0.5		0.5		ヌツク川をきれいにする会	流域環境管理における住民と行政の協働が契約の形で明確に役割分担され実施されている事例としてヌツク川の流域環境保全活動を視察し、議論する	・近年の活動内容の紹介(組織、改革の方向、スキームの特性、要望調査の流れ) ・グラウンドワークからアダプトプログラムに至る活動内容を説明 ・メンバーとの意見交換(研修員の自国での住民活動など)
	漁業と森づくり	0.5			1.0	北海道森林管理 局日高南部森林管理 署	行政と漁業者(地元住民)による植林・河川環境の保全への取り組みについて学ぶ	・河川環境及びその流域環境が漁業に与える影響
到達目標4:流域の環境管理に関するプロジェクトの立案が可能となる								
プロジェクト形成手法	JICAにおける水資源分野への取り組み	0.5			0.5	JICA地球環境部	・水資源分野のJICA協力について ・開発課題に対する効果的なアプローチ(水資源)を理解する	・JICAの協力課題別指針(組織、改革の方向、スキームの特性、要望調査の流れ) ・協力案件発掘・形成手法の説明 ・プロジェクト事例紹介
	PCM研修	1.0			2.0		・PCM手法を理解する	・PCMとは/問題分析/目的分析とプロジェクトの選択/PDMの作成 ・研修員のジョブレポートを基にケーススタディー、ワークショップ
	地域流域における持続的開発/アクションプラン作成指導	1.5			2.0	北海道大学 小野有五教授	流域管理に関する持続的なアクション・プランの作成	・研修で修得した技術や知識を自国に帰って応用するにあたっての問題点等をそれぞれの事例をあげコースリーダーを交えて討議する
	ジョブレポート発表会 アクションプラン発表会				1.0			
	学校訪問			1.0				

(小計) 18.0 4.5 14.5 7.0

(中計) 44.0

(総計) 45.0

平成19年度日程表（案）

付表-3

日時	形態	プログラム	担当講師・所属先	実施場所
5/6	日	来日（東京→帯広）		
5/7	月	入館式・ブリーフィング	NRC	帯広国際センター
5/8	火	ブリーフィング、オリエンテーション	NRC	帯広国際センター
5/9	水	オリエンテーション	NRC	帯広国際センター
5/10	木	日本語講習	NRC	帯広国際センター
5/11	金	日本語講習	NRC	帯広国際センター
5/12	土	休日		
5/13	日	休日		
5/14	月	帯広市長表敬訪問	帯広市国際交流課	
		コースオリエンテーション	北海道大学 小野有五教授	帯広国際センター
5/15	火	ジョブレポート発表会	"	帯広国際センター
	講義	流域環境とその管理		
5/16	水	講義 ランドスケープの構造と地形学1	"	帯広国際センター
5/17	木	視察 現場視察（札内川ダム、トッパツ川他） 湿原の修復事業（礼作別）	"	
5/18	金	講義 ランドスケープの構造と地形学2	"	帯広国際センター
5/19	土			
5/20	日			
5/21	月	講・視 流域環境と生物多様性（ほ乳類）	帯広畜産大学 柳川准教授	帯広国際センター
5/22	火	講・視 農業と環境	元ホクレン 西宗 昭 技監	帯広国際センター
5/23	水	講・視 流域環境と生物多様性（水生昆虫）	帯広畜産大学 岩佐教授	帯広国際センター
5/24	木	講・視 畜産廃棄物の地下水汚染	帯広畜産大学 梅津一孝教授	帯広国際センター 帯広畜産大学
5/25	金	講義 畜産廃棄物のリサイクル	帯広畜産大学 梅津一孝教授	帯広国際センター
		講・視 自然型暗渠排水における水質改善	音更高校農業科	音更高校
5/26	土	休日		
5/27	日	休日		
5/28	月	講義 河川監視と水質保全	帯広市環境課	
5/29	火	講・討 プロジェクト形成手法（PCM）①	（特活）ゾーエル・インスティテュート 代表理事 西野桂子	帯広国際センター
5/30	水	講・討 プロジェクト形成手法（PCM）②		帯広国際センター
5/31	木	講・討 プロジェクト形成手法（PCM）③		帯広国際センター
6/1	金	講・討 JICA地球環境部の取組み	JICA地球環境部水資源第1チーム	帯広国際センター
6/2	土	休日		
6/3	日	休日		
6/4	月	視察 移動（帯広→えりも町） 「えりも漁協における植林未来」 移動（えりも→釧路）	えりも漁協	えりも
6/5	火	視察 釧路湿原プロジェクト	北海道大学 中村太士教授	釧路市
6/6	水	講義 森林管理とランドスケープエコロジー	"	環境省東北海道地区自然保護事務所
6/7	木	討論 森林管理とランドスケープエコロジー	"	
6/8	金	移動（釧路→帯広）		
6/9	土	休日		
6/10	日	研旅 移動（帯広→札幌）		
6/11	月	講・実 GISによる流域管理	酪農学園大学 金子正美教授	酪農学園大学
6/12	火	講・実 GISによる流域管理	"	酪農学園大学
6/13	水	講・実 GISによる流域管理	"	酪農学園大学
6/14	木	視察 千歳川流域	北海道大学 小野有五教授	北海道大学

平成19年度日程表（案）

付表-3

6/15	金	講義	ランドスケープの構造と地形学3	〃	北海道大学
6/16	土	講義	アクションプラン作成指導1	〃	
			移動(札幌→帯広)		
6/17	日		休日		
6/18	月		振り替え休日		
6/19	火	講・視	治水と住民生活	帯広開発建設部 石田治水課長	帯広国際センター
6/20	水	講・視	地下水の保全と有効利用	有賀さく泉工業 渡邊氏	帯広国際センター
6/21	木	講・視	廃棄物処理の啓蒙活動 埋立て処分場と水処理	くりりんセンター 泉・石原氏	くりりんセンター/チンネル 処理センター
6/22	金	講・視	下水汚泥の再利用、農村下水と個別浄化	西原環境衛生研究所 廣瀬理事	西原環境テクノロジー 鹿追試験場
6/23	土		休日		
6/24	日		休日		
6/25	月	講・視	帯広市の下水処理	帯広市上下水道部総務課、 十勝川流域浄化センター	十勝川流域浄化センター
6/26	火	講・視	浄水処理と水質基準	帯広市上下水道部水道施設課	稲田浄水場
6/27	水	講・実	稲田浄水場	帯広市上下水道部水道施設課	稲田浄水場
6/28	木	討論	帯広市の環境政策と流域管理	帯広市環境課・水道施設課	帯広国際センター
6/29	金	講・視	森づくりと住民参加	十勝三股森づくり21 川辺百樹氏	ひがし大雪博物館
6/30	土		休日		
7/1	日		休日		
7/2	月	講・視	川づくりと住民参加1(行政)	帯広土木現業所 治水課	帯広国際センター
7/3	火	講義	アクションプラン作成指導2	北海道大学 小野有五教授	帯広国際センター
7/4	水	討論	道外研修旅行のため事前説明	〃	
7/5	木	講・視	川づくりと住民参加2(行政)	帯広市都市計画課	帯広国際センター
7/6	金		学校訪問		
7/7	土		休日		
7/8	日	研旅	移動(帯広→東京)		
7/9	月	講・討	日本の自然環境保全政策と環境影響評価	環境省環境管理局水環境部	
7/10	火		移動(東京→水俣)		
7/11	水	視察	水俣病:流域における有機水銀による汚染	北海道大学 小野有五教授	水俣病資料館/明水園他
7/12	木		移動(水俣→石垣)		
7/13	金	講・視	畑地帯の土壌流出	北海道大学 小野有五教授 南雲不二男氏他	轟川流域(国際 農林業研究センター)
7/14	土	視察	サンゴ観察、白保サンゴ村 移動(石垣→帯広)	北海道大学 小野有五教授	WWFジャパン 白保サンゴ村
7/15	日		休日		
7/16	月		祝日		
7/17	火	講・視	住民参加による河川環境の保全と活用	ヌップク川をきれいにする会他	大正小学校
7/18	水	討論	アクションプラン討論会	北海道大学 小野有五教授	帯広国際センター
7/19	木	討論	アクションプラン作成個別指導	〃	帯広国際センター
7/20	金		評価会、AP発表会、閉講式	JICA、NRC	帯広国際センター
7/21	土		帰国		

年度別受入実績表

1. 応募／選考（受入）人数

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	累計
応募数	17名	16名	19名	14名	12名	78名
受入数	6名	9名 (個別型1名含む)	8名	8名	8名	39名

2. 国別受入人数

○男性 ●女性

国名	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	累計
(アジア諸国)						
インドネシア	○●	○		●		4名
ミャンマー	○					1名
中国		●				1名
マレーシア		○				1名
パキスタン			○			1名
フィリピン			○		○	2名
タイ			●			1名
ラオス				○	○	2名
ベトナム				●		1名
インド				○	○	2名
(中近東)						
イラン					○	1名
トルコ	●		●			2名
(中南米)						
コロンビア	○			○		2名
ブラジル		○		○	●	3名
ペルー		●				1名
エクアドル		○				1名
ウルグアイ		○ (個別型)				1名
ニカラグア			○			1名
ホンジュラス				○		1名
パナマ					○	1名
メキシコ					●	1名
(アフリカ諸国)						
ウガンダ	○					1名
ケニア		●	●			2名
エチオピア			○			1名
ジンバブエ			●			1名
セネガル						
(欧州)						
チェコ		●				1名
ウクライナ					○	1名
セルビア・モンテネグロ				●		1名
合 計	5カ国 6名	9カ国 9名	8カ国 8名	8カ国 8名	8カ国 8名	39名